

株式会社 エムウェーブ第27期事業報告書

自：令和5年4月1日

至：令和6年3月31日

1 事業の概要

(1) 事業の経過及びその成果

「エムウェーブ」及び「ビッグハット・若里市民文化ホール」は、長野オリンピックレガシーとして後世に引き継いでいくとともに、長野市の「スポーツと文化の振興」及び「産業の発展」に資することを目的とした施設です。

当社は、その指定管理者として、関係機関との連携の下、積極的な営業活動と情報発信を展開するとともに、質の高いサービスを提供し、一層の利用を促進することで、経済波及効果を創出してまいりました。また、アイススケートの競技力向上や普及促進を図るとともに、運営面では更なる効率化・合理化に努めてきたところであります。

当期は、上期（9月）までのグリーンシーズンは、新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、イベントも順調に戻りつつあり、収支面では計画を上回る営業利益となりました。

10月からはアイスシーズンに入り、スピードスケートやフィギュアスケートの全日本クラスの大会が開催され、多くの観客にお越しいただくとともに、スケートリンクの一般営業や無料開放を実施し、スケート競技の振興とスケートに親しむ環境を整えてまいりました。

収支面では、4期ぶりの黒字決算となりました。大きな要因としては、売上高の面では、光熱費高騰に対応して指定管理料を増額いただいたことや、ビッグハットでのイベント開催が好調だったことにより増加したこと、経費面では、光熱費が当初の見込みを大きく下回ったことによるものです。これは、LNG等のエネルギー価格が高値ではありますが、比較的安定してきたことに加え、国の激変緩和策の延長、事業者の負担軽減策により調整費調整単価が抑えられたこと、また、使用量自体も節減に努めたことが挙げられます。

当期の事業実績として、売上高は6億5,218万円となり、前期との比較では4,454万円の増加、25期と比較すると8,550万円の増加となりました。なお、長野市からは、エネルギー価格高騰による影響を考慮して、指定管理料を増額していただいています。

販売費及び一般管理に係る営業費用は6億3,371万円で、光熱費高騰の影響を受けながらも、政府支援金の継続等に伴う電気・ガス代が抑えられ前期と比べ2,449万円減となりました。

結果として、当期の営業利益は1,846万円の黒字、営業外収支を含めた税引前当期利益は2,281万円の黒字となりました。

[単位：千円／税抜き]

		利用者数(人)	売上高	販売費・管理費等	営業利益	
全体 総括	25期実績	286,704	566,681	578,875	△12,195	
	26期実績	425,731	607,640	658,212	△50,572	
	27期実績	479,607	652,184	633,719	18,464	
	増減	25期比	192,903	85,503	54,844	30,659
		26期比	53,876	44,544	△24,493	69,036

(2) 施設部門別実績

ア エムウェーブ部門

(ア) 収支実績

売上高については、3億9,607万円で、前期より1,238万円、25期より3,394万円の増額となりました。

販売費・管理費等の経費については、3億8,669万円で、主に政府支援金の継続等による光熱費の抑制に伴い、対前期4,265万円の減少、対25期1,340万円の増加となりました。

結果として、営業利益は937万円の黒字となり、前期と比較すると5,503万円、25期と比較すると2,053万円の増加となりました。

[単位：千円／税抜き]

		利用者数(人)	売上高	販売費・管理費等	営業利益
エムウェーブ	25期実績	123,792	362,135	373,292	△11,157
	26期実績	210,385	383,697	429,349	△45,652
	27期実績	216,733	396,079	386,699	9,379
	増減	25期比	92,941	33,944	13,407
26期比		6,348	12,382	△42,650	55,031

(イ) 施設見学及び売店部門

長野オリンピックミュージアムは、展示品の保管・維持・充実を図るとともに、見学者については、昨年は小平選手のラストレースがあった影響から今期は減とはなったものの8,406人の方にお越しいただきました。最近では、外国人観光客の来訪者が増えてきています。

売店の売上は61万円で、大きなスポーツイベントや入場者の減少したことにより、対前期26万円の減少となりました。

(ウ) 貸館部門

グリーンシーズンの貸館営業につきましては、継続的にご利用いただいている顧客への営業を含め、ビッグハットと営業面での連携を図りつつ、コンサート、展示会などのイベント等の誘致・開催に努めたところです。コロナ5類移行によりイベント等も徐々に戻りつつありますが、大規模会場だけに、コロナ禍前に戻るにはまだ時間がかかるものと考えられます。

売上は6,113万円、入館者数は121,428人で、前期と比べて新型コロナワクチン集団接種会場の利用がなくなりましたが、売上は634万円増加し、入館者数は6,348人の増加となっています。

(エ) スケート部門

スケート大会につきましては、全日本スピードスケート距離別選手権大会や全国中学校スケート大会などが開催されたほか、大会も予定どおり開催されたことから、売上は2,781万円、大会入場者数は15,062人となりました。これは、前期と比べ大会開催数は同じでしたが、入場者数は、昨年の小平選手のラストレースとの比較となるため5,000人程度の減少となりました。

スケート入場については、スケート教室のほか、無料開放、氷の彫刻展、一般スケート営業を予定どおり実施できたことから、売上は4,694万円、スケート入場者数はNTC利用者を含め56,034人と、前期と比較して売上は278万円、入場者は441人の減少となりました。

エムウェーブのアイススケートの営業概要は、次のとおりです。

■アイススケート期間（営業期間：155日間）

令和5年	9月11日(月)	スピードリンク製氷作業（～9月30日）
	10月1日(日)	スピードリンクオープン（全日本及び競技者受入れ）
	10月8日(日)	スピードリンクオープン（一般営業開始）
	10月8日(日)	ホッケーリンク整備 （～11月2日：全日本距離別大会期間は作業中断）
	11月3日(金)	ホッケーリンクオープン
	11月6日(月)	スケート教室受入れ開始
6年	3月3日(日)	営業終了
	3月13日(水)	解氷作業（3月4日～3月13日）

■無料開放（7日間）

令和5年10月8日(日)	来場者	629人
11月12日(日)	〃	1,205人
12月3日(日)	〃	2,006人
令和6年1月14日(日)	〃	2,134人
2月24日(土)	〃	2,827人
2月25日(日)	〃	2,623人
3月3日(日)	〃	1,649人

■NTC（ナショナルトレーニングセンター）

アイスリンク専有時間	141時間
利用選手数	延べ11,273人（うち、NTC選抜有資格者2,075人）
トレーニングルーム利用者数	延べ1,239人

■主な競技会・イベント

1	第30回全日本スピードスケート距離別選手権大会	10月20日(金)～22日(日)
2	2023/2024全日本選抜スケート大会スピードスケート競技長野大会	11月17日(金)～19日(日)
3	第68回長野県高校総体スケート競技会スピード競技	12月12日(火)～13日(水)
4	第62回長野県中学校総体スピードスケート競技会	1月4日(木)～5日(金)
5	第44回全国中学校スケート大会(スピードスケート競技)	2月3日(土)～6日(火)
6	第22回エムウェーブスピードスケート競技会	2月16日(金)～18日(日)
7	第54回長野市スケート競技大会(フィギュア・スピード)	3月2日(土)

■市内小学校スケート教室

教室開催日	34日間
参加学校数	延べ 54校
参加者数	延べ 5,311人

(オ) その他

館内の広告看板営業収入については、前期より 62万円増加して 740万円となりました。

イ ビッグハット部門

(ア) 収支実績

売上高については2億5,610万円で、前期より 3,216万円の増加となり、25期と比較しても 5,155万円の増加となりました。

販売費・管理費等については2億4,702万円で、対前期1,815万円、対25期 4,143万円の増加となり、その主な要因としては、イベント開催が増えたことに伴う業務委託費と光熱費の増加であります。

結果として、営業利益は 908万円の黒字となり、対前期 1,400万円、対25期 1,012万円の増加となっています。

[単位：千円／税抜き]

		利用者数(人)	売上高	販売費・管理費等	営業利益	
ビッグハット	25期実績	162,912	204,546	205,583	△1,037	
	26期実績	215,346	223,943	228,863	△4,920	
	27期実績	262,874	256,105	247,020	9,085	
	増減	25期比	99,962	51,559	41,437	10,122
		26期比	47,528	32,162	18,157	14,005

(イ) 貸館部門

様々な分野でのイベントの誘致・開催に努めてまいりました。コロナ5類移行によりイベント等も徐々に戻りつつあり、展示会、スポーツ大会の開催などの会場として、利用いただきました。

売上は 8,269万円、入館者数は 163,879人で、前期と比較して売上は 2,047万円、入館者数は 42,070人の増加となり、対25期では、売上は 2,143万円、入館者数は 61,439人の増加となっています。

若里市民文化ホールについては、徐々に利用が戻ってきたことから、売上は 2,681万円、入館者 74,897人で、対前期 131万円、10,884人の増加となっています。

(ウ) スケート部門

スケート大会等につきましては、全日本フィギュアスケート選手権大会や全国中学校スケート大会（フィギュアスケート）、スペシャルオリンピックスが開催されたほか、アイスホッケーのローカル大会も予定どおり開催されました。

スケート大会売上は 3,071万円、入場者数は 20,098人となり、前期と比較すると売上は 1,555万円の増加し、入場者数はアイスショーが開催されなかったことにより 6,939人の減少となりました。

スケート入場の売上は 226万円で、大会等の準備によりコマ貸しが少なくなり、前期と比較して 99万円の減少、スケート入場者は 1,583人で前期と比較して 905人の減少となりました。

ビッグハットのアイススケートの営業概要は、次のとおりです。

■アイススケート期間（営業期間：70日間）

令和5年12月1日（金）	ホッケーリンク製氷作業（～12月14日）
12月15日（金）	ホッケーリンクオープン
令和6年2月26日（日）	営業終了
3月3日（日）	アイスリンク営業終了
3月17日（日）	解氷作業（3月4日～3月17日）

■主なイベント及び競技会

令和5年12月18日（月）～26日（火）	第92回全日本フィギュアスケート選手権大会 メダリストオンアイス
令和6年1月3日（土）～9日（火）	第32回パラアイスホッケー全国クラブ選手権大会
令和6年2月3日（土）～6日（火）	第44回全国中学校スケート大会（フィギュアスケート）
令和6年2月23日（金）～25日（日）	第8回スペシャルオリンピックス日本冬季大会（フィギュアスケート、ショートトラック）

(3) 営業成績及び財産状況の推移

(単位：千円)

区 分	第1期	第2期	第3期	第4期	第5期	第6期	第7期	第8期	第9期
売上高	93,020	503,205	477,700	427,268	411,745	342,744	360,336	368,690	226,660
当期損益 (税引後)	△9,014	△32,767	32,162	5,041	6,673	△279	8,568	6,572	18,438
1株当り 当期損益	円 △1,502.35	円 △5,461.1	円 5,360.47	円 840.22	円 1,112.14	円 △46.52	円 1,428.05	円 1,095.37	円 3,072.95
純資産	290,986	258,219	290,382	295,423	302,096	301,817	310,385	316,957	335,395
総資産	345,709	318,346	348,281	377,501	334,536	327,694	350,694	349,387	383,298

区 分	第10期	第11期	第12期	第13期	第14期	第15期	第16期	第17期	第18期
売上高	626,482	643,286	628,308	648,565	677,245	627,560	644,889	663,919	639,418
当期損益 (税引後)	36,142	18,123	14,059	16,599	19,293	12,519	2,578	5,978	12,185
1株当り 当期損益	円 6,023.69	円 3,020.33	円 2,703.64	円 3,192.09	円 3,710.20	円 2,407.55	円 495.91	円 1,149.65	円 2,343.43
純資産	371,537	389,660	363,719	380,318	399,611	412,130	414,709	420,686	432,872
総資産	450,954	464,166	430,645	473,967	470,712	483,716	488,594	507,272	505,043

区 分	第19期	第20期	第21期	第22期	第23期	第24期	第25期	第26期
売上高	674,087	682,983	621,096	640,918	622,865	505,313	566,681	607,640
当期損益 (税引後)	13,658	16,386	12,598	8,008	1,254	△32,243	△10,237	△48,661
1株当り 当期損益	円 2,626.62	円 3,151.22	円 2,422.80	円 1,540.16	円 241.19	円 △6,200.57	円 △1,968.65	円 △9,357.88
純資産	446,531	462,917	475,516	313,525	314,779	282,535	272,298	223,637
総資産	539,002	563,713	547,772	393,314	385,087	338,210	540,549	344,473

区 分	第27期
売上高	652,184
当期損益 (税引後)	22,490
1株当り 当期損益	円 4,325.15
純資産	246,127
総資産	379,071

(注)

- 第1期は、当社設立が6月1日であり、9月30日までの4か月間です。
- 第9期から事業年度を4月1日から翌年3月31日までと変更したため、第9期は6か月間です。
- 1株当たり当期損益は、期末発行済株式の総数から算出しています。なお、発行済株式の総数については、自己株式を除いています。
- 第10期からビッグハット及び若里市民文化ホールの指定管理業務を行っています。
- 第22期において、資本金の額を3億円から9,000万円に減少するとともに、自己株式800株を消却しました。

(4) 設備投資の状況

- ア エムウェーブアリーナ内に広告看板等を新たに設置しました。
- イ エムウェーブの中央監視装置のメディアコンバータを購入しました。

(5) 会社に対処すべき継続的課題

- ア 長野オリンピックレガシーとして大切な施設である「エムウェーブ」、「ビッグハット」を後世に引き継いでいくとともに、地域振興と長野の知名度・イメージ向上のための情報発信などを積極的に展開していきます。
- イ アイススケート普及のための強力なサポーターとなり、スケート競技の拠点化を進めていきます。
- ウ 合理的、効率的な経営を行い、常に良質なサービスの提供と継続的な黒字経営を、今後も努めます。

2 会社の現況

(1) 株式の状況

会社が発行する株式の総数	24,000株
発行済み株式の総数	5,200株
株主数	8名

株主名	当社への出資状況	
	持株数	出資比率(%)
長野市	3,000	57.7
長野県	600	11.5
株式会社 前川製作所	800	15.4
鹿島建物総合管理 株式会社	500	9.6
株式会社 八十二銀行	160	3.1
長野信用金庫	80	1.5
長野県農業協同組合中央会	30	0.6
長野都市ガス株式会社	30	0.6

(2) 取締役及び監査役の氏名等 (令和6年3月31日現在)

会社における地位	氏名	担当または主な職業
代表取締役会長	荻原 健 司	長野市長
代表取締役社長	倉 島 明	株式会社エムウェーブ (常勤)
取締役	米 沢 一 馬	長野県教育委員会事務局教育次長
取締役	樋 代 章 平	株式会社八十二銀行副頭取
取締役	松 山 大 貴	長野市副市長
取締役	中 村 裕 一	長野市商工観光部長
監査役	目 黒 匡	長野信用金庫専務理事
監査役	武 重 正 史	長野県農業協同組合中央会専務理事

(注) 当該事業期中の取締役及び監査役の異動は、次のとおりです。

1 取締役退任

令和5年3月31日付けで尾島信久氏が退任されました。

令和5年6月6日付けで西澤雅樹氏が退任されました。

2 取締役就任

令和5年6月29日付けで米沢一馬氏、松山大貴氏が就任されました。

3 監査役退任

令和5年6月22日付けで黒岩 博氏が退任されました。

4 監査役就任

令和5年6月29日付けで目黒 匡氏が就任されました。

(3) 従業員の状況 (役員を除く。令和6年3月31日現在)

人 数		平均年齢	平均勤続年数
男 性	8名	56歳 1月	7年
女 性	5名		